

割塚古墳の跡 割塚通1丁目

●「割塚通（わりづかどおり）」の由来



布敷首霊地の碑

割塚は『摂津志』（並河誠所、1734<享保19>年）に和理塚として紹介されており、明治時代の『西摂大観』にもみられる。この古墳は古墳時代後期のもので横穴式石室の大円墳であった。この付近の言い伝えでは、豊臣秀吉の大坂城築城の際、大きな石材が必要なためこの古墳の石室の巨石が大部分運び出され、封土はその時壊され、わずかに二個ずつの大石と内部に落ち込んだ蓋石を残すのみとなり、これが割塚の名の由来になったという。現在の割塚通の地名はこの割塚古墳にちなんで名付けられた。

いつの頃からか封土の上に稲荷の社を祀り、割塚稲荷と称されていたが、1935（昭和10）年に行われた

阪急電鉄三宮乗り入れ工事の時にこの遺跡はつぶされてしまった。なお、それより前、1926（大正15）年に墳石を利用して、「布敷首之霊地」という碑が稲荷の祠の前に建てられ（現在はもとの位置から西南に20㍍の所に移されている）、碑の裏に和理塚は布敷首の墓であると説明がなされているが、この割塚が布敷首の墓であるという根拠は今の所どこにもない。

なお、この「布敷首之霊地」の碑の裏側に昭和37年に建立された「割塚古墳の跡」の碑がある。



割塚古墳の碑